

様式第2（第9条関係）

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和8年 1月9日

犬 山 市 議 会
議 長 大 澤 秀 教 様

議員名 鈴木 伸太郎

下記のとおり、研修の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和8年 1月 8日(木)
(2) 場 所	草津市 (株)バイオセラー
(3) 形 態	会派 () : その他 (鈴木・柴山 他市町議員)
(4) 内 容	ヌーボー菌を活用した生ごみ処理機見学 報告書別紙
(5) 成果・提言	報告書別紙



出張報告書 令和8年1月8日 草津市 (株)バイオセラー

長野県下伊那郡高森町が導入している、生ゴミを24時間でたい肥化する製品を見学した。この機械は草津市に本社を置く(株)バイオセラー社が開発した製品で、高森町ではこのコンポスターを今年度試験導入(予算約8,000千円)、生ゴミを搬入する町民には重量によるポイント還元制度と連動させた結果、町民からの反応が良く、今年度中に補正予算で初回より大型の機材の導入を決定している。高森町の取り組みは、後日町を訪問して学ぶ事とし、今回は製品のシステムや技術を学んだ。参加者は、SNSでの呼びかけで、犬山市議は柴山議員と鈴木、その他美濃市議、各務原市議、日進市議、常滑市議、東浦町議の計8名。

我々が到着直後に、大根、キャベツ等の野菜を15キロほどを機械に投入、1時間後にはバラバラに粉碎されていた。これが24時間後には完熟たい肥となり、ゴミの搬入量の2割に減量されているという。同社が発見した「ヌーボー菌」という特殊な微生物による分解でこれが可能とのこと。たい肥は、農地に還元することで、安心安全、地元産の安価な資材として循環型地域農業に寄与することが期待される。

犬山には少ないが、家畜の糞の臭いを緩和させる効果もあるとの事で、例えば市内の乗馬クラブと連携することで、周辺への臭いの課題解決の他、より高品質のたい肥の生産が可能となる。

すでに複数の食品関連企業やスーパーが導入、たい肥を自社農場での利活用する等の社内循環が進められている。

見学した限りでは、良い面ばかり、機械はシンプルでメンテナンスに手間がかからない、初回導入時も維持管理のコストも大きな額ではない。短期間でゴミ減量、たい肥化が可能で、循環型社会の実現に寄与する。

犬山市への提言

例えば、各小中学校に1基ずつ配置すれば、給食の残渣の処理コストは、長いスパンで考えれば大幅に削減可能。

また、新ゴミ焼却施設が江南市に移転した後、現焼却場跡地で、シルバー人材センターに委託する等で、生ゴミ搬入→たい肥製造販売をおこなえば、シルバー人材センターの新たな収益源となる。

総じて生ゴミの量が減れば、犬山市内から江南市への移送コストはじめ、トータルでゴミ処理費の削減につながる。是非提案して実現していきたい。

以上